

令和2年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立三池高等学校長

学校運営計画				評価(3月)			
学校運営方針		県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。					
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標				
創立記念行事を経験した生徒が牽引力となり主体性の質を高めることができた。令和2年度は次の百年に向かってさらに主体性を発揮させ、「学びに向かう力」を育成する。また、多角的な学びの場の提供、ICTの活用などをとおして、普通科高校としての教育力向上に努める。併せて、本校の魅力を広く発信し、地域の信頼を高める。		確かな学力の育成	学習指導要領の趣旨に基づいた授業を行い、自ら学びに向かう力を醸成し確かな学力の充実を図る。				
		キャリア教育の充実	キャリア教育の推進を図り、自己の意思と責任で進路を選択させるとともに、その実現を目指して自ら課題を設定し、主体的に解決しようとする力を身に付けさせる。				
		生徒会活動の活性化、安全に対する意識の向上	自己選択や自己決定の場や機会を与え、自らの選択や決定に従って努力することなどとおして、将来における自己実現を可能にする力をはぐぐむ。				
		地域・同窓生との連携	本校の教育活動の魅力や成果を地域及び同窓生に発信し、信頼と期待を高める。				
項目	本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策		評価(3月)	次年度の主要課題		
教務班	□学力の向上	□自立した生活習慣の確立	<input type="checkbox"/> 三高生らしい生活習慣とともに、自ら考え行動できる力を身に付けさせるため、各教科との連携を図る。 <input type="checkbox"/> 学年部と連携し、自ら心と体の健康に留意できる態度を身に付けさせる。 <input type="checkbox"/> それぞれの学年に応じた学習習慣を確実に位置づけさせるため、集会等の機をとらえて指導を行う。		A	・引き続き学年部と連携し、行事の変更や追加などに、臨機応変に対応していく。 ・次年度は無線LANの配置予定もあり、コロナ禍において高まったICTの活用を、本年度の実績をもとに有効な実践につなげていく。 ・新学習指導要領の教育課程については、次年度以降も様々な情報に目を向け、適宜修正しながらより良い教育課程を模索する。	
		□学習指導の充実	<input type="checkbox"/> 見通しをもって生徒が授業に臨めるよう、3年間を見通した指導計画や評価の観点を工夫する。 <input type="checkbox"/> 学ぶ喜びを感じることでできる授業ができるよう、ICTの活用や言語活動の充実を図る。 <input type="checkbox"/> 各教科で「思考・判断・表現」の観点に係る問題を出題するようにする。 <input type="checkbox"/> キャリア育成部との連携を図り、総合的な探究の時間を充実させる。				
		□主体的に学習に取り組む態度の育成	<input type="checkbox"/> 学力向上の重要性を認識させる指導を学年部と連携して行い、学習習慣の定着を図る。 <input type="checkbox"/> 家庭学習時間調査により、家庭学習の大切さを理解させ、予習、授業、復習の定着を図る。 <input type="checkbox"/> 定期考査の結果などを活用し、進路実現を見通した学力の向上と家庭学習時間の増加を図る。				
	□三池高校の活性化	□生徒の学習意欲の喚起と新たな教育課程編成	□新学習指導要領や大学入試共通テストに対応できる教育課程の編成に取り組む。				A
総務班	□学校行事	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(入学式、卒業式、始・終業式、全校朝礼等)	<input type="checkbox"/> 各行事の計画を2ヶ月前から立て、各部・各班や学年との連絡調整を緊密に行う。 <input type="checkbox"/> 各行事の業務分担割については、業務内容や担当分掌に鑑みて適材適所で配置するとともに、実施要項を1ヶ月前に提示し、計画的かつ円滑に運営できるようにする。		B	・コロナ禍でも、各部署と調整を行いながら大きな混乱もなく各行事を実施できた。次年度も、行事の円滑な実施のために周辺地域感染状況把握しながら柔軟に企画を進める。 ・第10学区進路相談事業は中止となったが、本校主催の広報活動は工夫することによって例年に準ずる形で開催できた。次年度は作成した広報誌をWeb配信や中学校への郵送、校外掲示板などに掲載するなど本年度の取組をさらに発展させる。	
	□広報活動の充実	□令和3年度入試の志願者倍率、1.2倍超を目指す。	<input type="checkbox"/> 第10学区ならびに熊本県北部在住の中学生に対し柔軟にPR活動を行うとともに、小学校・中学校との交流活動の様子を地域社会に発信する。 <input type="checkbox"/> 広報紙及び学校案内は、生徒等の意見やアイデアを取り入れるなどして、インパクトがあり読みやすいものを作成し、中学生や地域の方々に向けて発信する。また、正門・国道側掲示板やホームページの活用により、生徒の諸活動の様子を効果的かつ好時機に発信する。 <input type="checkbox"/> 中学生対象行事や中学校訪問、及び高校説明会を組織的にを行い、生徒会や他分掌との連携を図ることによって、本校の魅力や生徒の主体的な諸活動を効果的に伝える。 <input type="checkbox"/> オープンスクールについては、年度当初に年間計画を立てるとともに実施内容に関して議論を深めることで、生徒の様子や本校の教育活動を中学生と保護者に分かりやすく効果的に伝える。				
	□庶務関係	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(諸会議の準備、巡視割等)	<input type="checkbox"/> 計画、準備を迅速かつ正確に行い、係員間の調整・連絡・協議を綿密にして実行する。 <input type="checkbox"/> 実施後の記録や文書(データ)の管理を確実にし、業務のスリム化に努める。				A
	□関係機関との連携	□各種会議の円滑な運営(父母教師会関係、同窓会関係)	<input type="checkbox"/> 父母教師会の諸行事が円滑に進むよう補佐する。 <input type="checkbox"/> 同窓会事務係との連携を図るとともに連絡を密にし、諸会議等が円滑に進むよう補佐する。				A

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
進路指導班	□進路研究・進路学習	□「総合的な探究の時間」の計画的運営	□各学年の担当と学年との連携を密にした運営 □学部・学科研究による進路意識の高揚 □小論文指導や探究活動とおした自己表現力の養成 □「志講演会」及び「出前講座」をおしたグローバルな視野を持った人材育成 □各学年と連携した進路関係の講演や説明会の企画	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」の充実のために学事部や他分掌、各教科とさらに連携を図る。また、外部機関との連携の在り方を模索する。 ・受験方式や進路指導の多様化に伴い、現在の「進路のしおり」の内容を精選して、卒業生からの「合格へのアドバイス」と「資料」のみとする改訂を実施する。 ・朝夕課外、土曜チャレンジセミナー、模擬試験の在り方を絶えず「魅力ある講座にして受講率を高める」方向性をもって検討していく。
	□進学・就職指導	□個に応じた第1志望進路の決定 ・国公立大学合格40名以上 ・公務員(就職)希望者合格率80%以上 ・西南学院大学合格のべ20名以上 ・福岡大学合格のべ60名以上 □面談及び個別指導の充実 □新しい入試制度への対応	□復習考査の充実(長期復習として位置づけ、効果的な運営を行う。) □小論文・面接指導の充実(職員が連携した指導を行えるよう状況を整える。) □受験校・就職先の綿密な検討(入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。年間2回の受験校検討会実施。就職希望生徒の個別対応。) □新しい入試制度の情報提供(回覧などで全職員へ情報提供及び新調査書の準備。) □新しい様式の調査書への移行(各学年と連携しながら記録する。)	B	
	□模擬試験	□1,2年生は進研模試総合(国数英)平均偏差値50以上 □3年生は進研模試の各教科・科目の偏差値50以上 □学力の2極化の解消及びその対応	□朝夕課外・土曜チャレンジセミナーの充実(各教科・学年と連携し内容の検討を行い、柔軟に対応していく。) □長期休業中の補習の充実 □模試分析会の充実(1・2学年は各模試後に毎回分析会を実施。3学年は必ず教科で分析会を実施。学年・教科で課題解決策を考え、その内容を習熟度別に生徒へ提示する。) □ハイレベル模試、個別大模試の推奨	C	
研修・図書班	□図書(読書)の推進	□生徒の読書量を増加させる。 □図書室の利用を促進する。 □ブックワゴンの活用を促進する。 □図書委員合同研修会に積極的に参加する。	□他分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成する。 □図書委員会主体で発表会や読書活動の推進等を行う。 □図書委員合同研修会での主体的活動を通して生徒の自主性を育成する。 □図書委員合同研修会で得た成果を、ライブラリーニュース等を通じて全校生徒に還元する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の推進においては、コロナ感染症対策を確実に実行することができた。ブックワゴンについては利用停止のままであり、今後の活用方法を考えたい。 ・校内職員研修の内容を精査して実施する。 ・外部研修に参加された先生方の研修内容の還元の機会を設定する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教育活動の推進を図る。
	□職員の資質・能力の向上	□教科指導力の向上、特に新学習指導要領に基づいた思考力、判断力、表現力を育むための授業改善に努める。 □多様化する生徒や時代に求められる指導力向上のための研修会の推進を図る。	□教育センター等の外部での新たな学びに関する授業研究やICT教育、人権教育等の研修会への積極的参加を呼びかける。 □外部の研修会に参加して得た成果を各教科・分掌等で共有する。 □授業研究月間(10月)を設け、各教科代表者の研究授業及び相互参観授業を行う。 □授業アンケートを実施することで、生徒の実態や各教科の課題を把握・認識し、授業改善を図る。 □各教科の研究授業指導案を年度共通フォルダ内で管理し、先生方が利用しやすいように工夫する。 □他分掌と連携した研修会(いじめ問題等)を実施する。	B	
	□人権教育の充実	□全教科・領域で、人権教育に関する目標を年間計画に盛り込み教育活動を行う。 □各学年2回の人権教育の充実を図る。	□全教科・領域における人権教育に関する情報を収集する。 □学年事前検討会を授業実施日の2週間程度前に設定し、十分な準備時間を確保する。 □1年次第1回は「いじめ」に関する題材を扱う。また、1年次第2回は教材・資料として「人権・同和パンフレット」を活用する。	B	
	□教育実習の企画・運営	□教育実習を通して、実習生の間人形成と教師としての資質向上を目指す。同時に、指導担当者の指導力の向上の機会とする。	□大学との連絡をホームページ等を活用し円滑に行う。 □連絡会(朝・夕)を通して、学ぶ意欲を持続させるとともに、実習生としての自覚と責任ある行動を喚起する。 □学校行事等、教育の意義や価値を体験できる場を積極的に提供する。 □教育実習生への指導・連絡の内容について、職員が把握できるよう連絡方法を工夫する。	A	
生徒指導班	□生徒会活動の充実	□生徒会執行部・各種委員会の年間計画を立てさせ、主体的・体系的に運営させる。 □既存の学校行事(大運動会・三高祭・校内体育大会等)の成功及び学校活性化のための新たな取り組みを行う。	□学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、企画・立案・実行できるよう指導する。 □生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置づけ、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大運動会や文化祭などの学校行事を新型コロナウイルス感染症防止策に則った実施方法や内容を検討する。 ・友人関係のトラブルに発展しやすいSNSの使用に関する講演会の開催する。 ・成人年齢の引下げに伴い、自己選択や自己決定の機会になるよう校則を見直す。 ・災害等への対応を含めた危機管理マニュアルの改訂を進める。 ・校舎改築に伴う部活動の活動場所の確保、及び部活動数を検討する。
	□基本的生活習慣の確立と問題行動等の未然防止	□特別指導等の問題行動を年間で0件を目指す。 □携帯電話等に関する規定違反件数5件以下を目指す。 □挨拶の励行・時間の厳守・端正な服装を生徒に身に付けさせる。服装頭髪等違反生徒を5%以下とする。	□積極的生徒指導を全職員で行い、問題行動を未然に防ぐ環境づくりを行う。 □携帯電話の校内持ち込みについての確かなルールの下、生徒に指導徹底を行う。外部講師による生徒対象の講演会を実施し、SNSの正しい使用方法等を学ばせる。 □各学年において、定期的に正装点検を行い生徒の規範意識の高揚を図る。 □生徒会執行部・各種委員会・運動部員を中心に挨拶の指導を徹底し、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。	B	
	□安全教育	□年間の交通事故・事件件数を10件以下を目指す。特にバイク通学者の事故については0件を目指す。	□集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 □生徒対象の研修会を実施する。	B	
	□部活動の活性化	□部活動加入率を運動部で55%、文化部で25%以上にし、学校生活全般で模範となる生徒を育成する。	□部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 □生徒数に応じた、部活動数の検討を行う。	A	

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
保健班	□生徒の健康維持増進	□自己の健康管理を自発的に行う力を身に付ける。 □疾病、感染症予防に努める。 □主体的な生徒保健委員会の活動を目指し、自己指導能力を育てる。	□各検診別未治療者に関して治療を促し、家庭と連携を取りながら事後処置(検査・治療)を目指す。 □保健班の会議、演習、協議を随時行い、チェック体制を整えていく。 □基本的な予防策を徹底させ、保健だより、集会等での啓発活動を行う。緊急時の連絡体制の整備を行う。 □生徒自らが課題に対し啓発活動が円滑に行えるよう支援を行う。(感染症予防、献血セミナー、がん教育等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策を引き続き徹底させていく。(保健だより、放送等による啓発活動の強化、環境整備等) ・コロナ禍、校舎改築工事を考慮して、保健関係行事のより適切なの日程、方法等を検討していく。 ・気づき共有シートの使用、作成等の改善を行う。 ・今年度に続き、いじめ、教育相談関係の職員研修を充実させる。
	□安全教育と安全管理の充実	□安全管理体制の整備を行い、全職員の共通理解を図る。 □生徒の安全対応能力を育むとともに職員の危機管理能力、資質の向上を図る。	□校舎改築工事に伴い、危険箇所改善や予防に向け、適宜、職場安全点検を行い、事故0を目指す。 □危機管理マニュアルの改訂、学校保健計画、学校安全計画の見直しを行う。 □地域の関係機関と連携した救急救命講習会、防災避難訓練を行い、内容を充実させる。	A	
	□環境の整備と環境美化	□掃除の徹底、ゴミの分別・減量化を図る。 □主体的な美化委員会の活動を目指して、奉仕の精神や愛校心を育てる。	□月一人大掃除の内容を充実させ、行事に連動して検討・計画する。 □美化委員会を中心にゴミの持ち帰りの徹底や減量化に向けた活動を行う。(学期ごとのゴミの分別等の呼びかけ活動、強化週間の実施、掃除道具の点検・充足化)	B	
	□いじめの未然防止・早期発見	□迅速かつ適切で、丁寧な対応を組織的に取り組む。	□いじめ問題対策委員会を定期的に行うことで、情報共有を行い、その解決策について検討する。 □必要に応じて、第三者の指導、助言を仰ぐ。 □いじめの未然防止に向けて、外部専門家による職員研修、人権教育授業の充実を図る。	A	
	□教育相談の充実	□早期発見、早期対応に努める。 □安心・安全な学校生活を送るための環境整備を行う。	□担任・学年・教科担当・保健室との連携を図りながら迅速な対応を行う。また、関係医療機関との連携を密にする。 □特別支援コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当者との連携を取りながら、生徒の把握に努め、全職員で情報を共有していく。(気づき共有シートと教育相談委員会資料の作成方法の検討、実施)	A	
第一学年	□生きる力の育成	□高校生活のリズムを早期に掴ませ、定着を図る。(健康と体力) □学ぶ意欲・態度・やり抜く力の育成。(確かな学力) □進取・至誠・自治の精神の醸成。(豊かな人間性)	□授業をはじめ学校生活の全領域で学ぶ意義の理解や目的意識を持たせ、安易な遅刻や欠席をしないよう、積極指導の充実を図る。 □全ての授業で共通理解を持ち、学校生活における基礎基本(挨拶、授業規律、規範意識)が、体得できるようにする。 □教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる行動(挨拶・時間厳守など)を身に付けさせる。 □全教科・全領域において道徳教育の観点からの働きかけにより、豊かな人間性をはぐくむ。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・導入期の指導は、試行錯誤の結果、概ね目標を達成することができた。各種データから、生徒は落ち着いた学校生活を送っており、安心・安全な環境は整っている。今後は挑戦することの価値、失敗から学ぶことの意義、困難に立ち向かう勇敢さなどを体験から学ばせたい。また人間の内面的な力を高めることで、学ぶ意欲の高揚のみならず、全人的な成長を図り、進路実現のための土台作りに取り組んでいく。
	□基礎学力の定着	□学習サイクルを確立させる。 □平日の平均学習時間120分以上、休日の平均学習時間200分以上を目指す。 □模試で平均偏差値50以上を目指す。	□課外→授業→部活動→家庭学習のサイクルを確立させられるよう、面談や生活の記録などを手立てに集団や個に応じた指導を行う。 □総合的な探究の時間やホームルームの時間を通じて、多様な考え方や価値観に触れ、自己の在り方生き方を見つめさせることで進路意識の向上につなぐ。 □データをもとに言葉かけや手立てを講じ改善を図る。 □ガイダンス機能の充実により受験をみとおしたキャリア教育を推進する。	A	
	□共通理解と生徒個人やケースに応じた生徒指導	□生徒情報の共有を図る。 □学習活動における目標・目的を学年団で共有し、積極的な生徒指導の充実を目指す。 □学年団全員で指導に臨む組織づくりを基本に、個やケースに応じた幅広く柔軟な指導を心掛ける。	□定期学年会等、日常的に教員間のコミュニケーションを大切に生徒情報の共有を図る。 □教育活動における目標・目的を明確にした指導を行う。また、生徒をよく観察し、プロセスを大事に積極的に指導に当たる。 □日頃から保護者との連携を密にし信頼関係の構築に心がける。アカウントビリティ(説明責任)が果たせるよう、指導の手順や根拠を大切にす。	A	
第二学年	□ルール・マナーの順守	□ルールやマナーを守り、安心安全な環境のもと、充実した学校生活を送らせる。 □時間を守り行動できるようにする。(時を守り) □進んで清掃活動を行うようにする。(場を清め) □爽やかな挨拶ができるようにする。(礼を正す) □学校外でもルール・マナーの順守を求める。	□いじめアンケートや学校生活アンケートで状況把握に努め、早期に対応し、問題の未然防止に努める。 □教員が率先垂範し、社会生活・学校生活の中で求められる行動(挨拶・時間厳守など)を身に付けさせる。 □年間を通して、学年集会や朝礼・終礼の時間に道徳的な講話を実施する。 □地域からの情報を実態把握の一助とし、どう行動するべきかを考えさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を動かすリーダーの養成が必要である。特に大運動会のリーダーとなる生徒の育成が急務であり、例年以上のサポートが必要である。 ・新入試が2回目となり様々な変化に対応できるよう職員が最新の情報収集に努める。 ・個々の生徒の学力の定着と保護者との信頼関係を向上させる。 ・「時を守り、場を清め、礼を正す」をモットーに教室環境の整備を徹底して、受験生としての意識を高める。
	□中堅学年の役割と自覚	□リーダーシップと相手を思いやる優しさを身に付けさせることで、上級生を支え、下級生の模範となる。 □総合的な探究の時間を深化させ、将来の在り方、生き方について真剣に考えさせる。 □「中だるみ」の防止に努める。	□学校行事や部活動等への積極的参加を促し、活動及び部長等の立場から、コミュニケーション力や忍耐力、計画性といった力を身に付けさせ、人間形成を図る。 □ホームルームや総合的な探究の時間等を通して、自己を知り、深め、発表することで高い志を持たせる。 □安易な欠席・遅刻・早退をしないように指導し、皆勤を目指す。	B	
	□学力向上	□進路意識を高めさせ、自発的に学習するように指導する。 □平日の平均学習時間130分以上、休日の平均学習時間220分以上を目指す。 □進研模試における国数英の平均偏差値50以上を目指す。 □英検や漢検などの資格取得に向けて、積極的に受験させる。 □学力層に応じた教科指導を行う。	□オープンキャンパスへの積極的な参加を推奨し、出張講義の受講、ポスターセッションなどとおして、進路意識を高めるための様々な指導を行う。 □放課後・週末の学校での自学を奨励する。 □「生活の記録」から生徒の実態把握に努め、適宜指導・助言を行う。 □国数英だけでなく、文系＝社会、医療系・理系＝理科に対する学習意識を高く持たせる。 □課題については、教科間で調整を行い、分量と提出日を考慮する。 □GTECの全員受験や英検・リスニング・面接対策また漢検対策指導等を行い、学年として資格取得に向けた雰囲気を作る。 □全体に対して1日1題プリントを実施する。 □下位層には考査前補講や個別添削指導、上位層には講座を実施し、全体の底上げを図る。	B	

項 目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題
第三学年	□希望進路の実現	<input type="checkbox"/> 家庭学習の充実(平日180分/日・休日360分/日) <input type="checkbox"/> 73回生全員の卒業認定 <input type="checkbox"/> 読解力・表現力の育成 <input type="checkbox"/> 進研模試の偏差値が各教科50以上 <input type="checkbox"/> 国公立大学合格者が40名以上 <input type="checkbox"/> 西南学院大学合格者が20名以上 <input type="checkbox"/> 福岡大学合格者が60名以上 <input type="checkbox"/> 公務員試験合格・就職内定が80%以上	<input type="checkbox"/> 「生活の記録」の集計結果を学年で共有し、指導に役立てる。特に理科や社会に対する意識をより高く持たせ、「武器」となる教科を作らせる。 <input type="checkbox"/> 最新情報をもとに現状を知り、対策を講じる。また、模試分析会の結果を学年で共有し、指導に役立てる。 <input type="checkbox"/> 進路実現のために、一般選抜だけでなく、総合型選抜・学校推薦型選抜など、あらゆる受験機会を検討させる。 <input type="checkbox"/> 小論文・面接指導については、全職員に協力を依頼して実施する。 <input type="checkbox"/> 年間を通して二者面談・個別指導をこまめに行い、希望進路の確認や指導・助言、精神面のケアに努める。 <input type="checkbox"/> より多くの生徒に英検2級を取得させる等、その他の資格取得にも積極的に挑戦させる。 <input type="checkbox"/> 朝読書の時間を有効活用する。	B	<p>・新型コロナウイルスの影響により、予定通りに活動が行われない可能性がある。今年度の取組を参考に、その時に何をどのようにできるかを考え、できることを可能な限り実施できる体制を創る。</p> <p>・生活面・学習面ともに、導入期の指導を大切にする。、特にルール・マナーの遵守と安心・安全な環境づくりに努める。学習面については、初めての共通テスト・入試の経験から、3年間をどのような見通しを持って指導すべきかを学年・各教科で考え、組織的な指導に活かす。</p>
	□最上級生としての自覚	<input type="checkbox"/> 「在り方・生き方」を考える <input type="checkbox"/> 目標実現のための主体的・計画的な取り組み <input type="checkbox"/> 部活動・大運動会・受験を通じての成長	<input type="checkbox"/> 安易な欠席・遅刻・早退をしないように指導し、皆勤を目指させる。 <input type="checkbox"/> 生徒が自己を知り、高い志を持ちその実現に向けて努力するように、授業・ホームルーム等、あらゆる時間を利用して指導する。 <input type="checkbox"/> 学校行事や部活動等に積極的に取り組ませ、与えられた責任・役割を全うさせる。 <input type="checkbox"/> 学校行事や部活動、受験勉強を通して、何事にも挑戦する逞しさを育成する。 <input type="checkbox"/> 状況に応じて的確なアドバイスをしながら生徒自身の力で乗り越えさせるようにする。	B	
	□豊かな人格の形成	<input type="checkbox"/> 規範意識と社会性の涵養 <input type="checkbox"/> 他者を思いやる心の育成 <input type="checkbox"/> 自己管理の徹底	<input type="checkbox"/> 引き続き、「時を守り、場を清め、身をただす」を実践させる。 <input type="checkbox"/> ルールやマナーを守らせ、安心安全な環境づくりに貢献させる。また、交通ルールの遵守は絶対であることを強調し、自分の命・他人の命を守らせる。 <input type="checkbox"/> いじめアンケートや学校生活アンケートで状況に把握に努め早期に対応し、問題の未然防止に努める。	B	